

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570201073		
法人名	医療法人社団泉会仁会		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家		
所在地	山口県宇部市大字木田字中山田40-20		
自己評価作成日	平成22年7月15日	評価結果市町受理日	平成22年12月21日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様9名に対し、8人のスタッフで担当制をとり、寄り添うケアに努めている。</li> <li>・面会時、家族会、毎月発行のホーム便り等で、日々の生活状況や健康状態を細かく報告している。</li> <li>・季節感を感じていただけるように、季節ごとの行事、外出等に取り組んでいる。</li> <li>・朝、昼、夕の3食共、利用者様と調理、盛り付け、配膳、後片付けまで行っている。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者が住んでいた地域のどんど焼きや夏越まつり、地区の運動会への参加、文化祭への作品の出版、保育園児と合同でのバス旅行、ボランティアの受け入れなど事業所独自の地域との付き合いを工夫され日常的に地域との交流に取り組んでおられます。「一緒に美味しい食事をつくります」の理念の下、三食調理することを大切にしておられ、利用者と職員と一緒に準備、盛り付け、片付けをされ、一人ひとりの好みや力を活かされることで笑顔や生き生きとした表情につながり、食事を楽しまれています。また、梅ジュースや柏餅づくりなど活躍できる場面づくりに工夫されています。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き生きと働けている	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流や、役割を持つことで自身を取り戻していただくことや一緒に美味しい食事を作ることを理念にあげ、日々の介護の見直しや実践を行っている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を職員で話し合って作成し、事務所に掲示すると共にミーティング時に唱和して共有し日々の実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様の地元のどんど焼き・夏越し祭り・運動会・文化祭等に参加したり、地元の保育園児とバス旅行など交流を深めている	利用者が住んでいた地域のどんど焼き、夏越し祭り、小学校校区住民の運動会に参加、校区文化祭に作品を出展、保育園児とのバス旅行、ボランティアの受け入れなど事業所独自で地域との付き合いを工夫し交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行のホーム便りを事業所に配布し、地域の人々に向け活かしている		
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価表を職員全員に配布し、ミーティング等で検討し、話し合いを重ねている 前回の問題点も出来るところから改善している	評価の意義を理解し、評価表を全職員に配布して、記入後にミーティングで検討し管理者がまとめている。職員各自のケアの振り返りとなり、勉強の機会として捉えている。	
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しメンバーは利用者様・ご家族・職員・高齢福祉課他事業所の職員の参加あり。活発に意見を交わし行事報告・緊急時の対応などについて報告しサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、メンバーは利用者、家族、高齢福祉課職員、管理者、職員に今年度は他施設のグループホーム管理者を加えて運営推進会議の意義、緊急時の対応、家族会などについて話し合い、行事予定や外部評価の報告等について意見交換をしサービスの向上に活かしている。	
6	(5)	市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課・併設の地域運営室・支援センターとの連携をとり、情報交換を行い相談事があれば連絡をとり、サービス向上に取り組んでいる	高齢福祉課や介護保険課の担当者とは日頃から連携し、相談、情報交換をしてサービスの質の向上に取り組んでいる。	

グループホーム めくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>最近入所された利用者様の離脱があり、まだ落ち着かないため安全のために玄関にストッパーをしている</p> <p>徐々に落ち着かれているため、はずす方向にもっていく</p>	<p>身体拘束防止マニュアルを作成し、ミーティング等で話し合い、職員は理解し拘束をしないケアに取り組んでいる。施錠の弊害を理解し、鍵をかけずに安全に過ごす工夫をしている。</p>	
8		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>グループホーム内で研修を行い、お互いに意見交換を行い防止に努めている。</p>		
9		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>以前、成年後見制度を利用された利用者様がおられたので全員が理解している</p> <p>今後も学ぶ機会を持ちたい</p>		
10		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>改定時にはご家族に書類等で十分に説明をして理解してもらっている</p>		
11	(7)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付を明確にして、面会時や家族会等で何でも相談していただき苦情を伝えていただけるように話している</p>	<p>相談、苦情の受け付け体制、処理手続きを定め、入居時に利用者、家族等に説明すると共に面会時、家族会等で意見、要望が出せるよう雰囲気づくりに努め、意見要望を聞くよう心がけている。</p>	
12	(8)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングやミニカンファレンス等で意見・提案を言い合えるような体制にしている</p>	<p>管理者は現場職員からの意見や情報を取り入れ法人に提言できる体制が出来ている。利用者、家族への個別の希望に沿う柔軟な支援を可能にするため勤務体制の要望が取り入れられている。</p>	
13		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人としてやまぐち男女共同参画推進事業者の認定や介護職員の処遇改善のために処遇一次金を支給するなど就業環境の整備に努めている</p>		

グループホーム ぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会の企画する内部研修や外部研修に積極的に参加するよう推奨している	毎月開催される法人の新人と中堅も含めた研修に参加したり、段階的に年休で外部研修に参加し、外部研修の復命を全職員で共有している。また、パート職員も含めて働きながらトレーニングしていくことを進めている。	
15		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの視察研修を行うとともに、グループホーム協議会の行事に参加し情報交換に努めて、日常のサービス向上に活かしている		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他の利用者と話をしたり一緒におやつを食べたりするなかで本人が不安に思うことや困っている事を話しやすくし、少しでも安心できる関係づくりに努めている		
17		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用されるまでのご家族の沢山の不安や困った事に耳を傾け、話しやすい姿勢にて対応し受け止めている		
18		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、今一番必要とされる支援は何かを本人・ご家族と良く話し合う 必要であれば他のサービスとの連携もとる		
19		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしに必要な食事作り・掃除等なんでも一緒に行い、分からない事を教え合いながらお互いを尊重しながら生活している		
20		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の利用者様の変化も常時報告し、ご家族とは密に連絡をとり、誕生日など祝い事はご家族と一緒に食事を楽しみあい、共に支え合う関係が築けている		

グループホーム ぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の状況に応じてご家族との外出時や個別に職員と外出するときなど馴染みの美容院やスーパーなどへ出掛けるように努めている。面会時間を設けずいつでもどなたでも来ていただけるようにしている	友人、知人の来訪、住んでいた地域の行事への参加、馴染みの美容院やスーパーなどへ出かけるなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファー・テーブルの配置などに気を配り、利用者様同士が関わり合えるように努めている。又、孤立していると感じたときはさりげなく他の利用者様の側へ一緒に行き関わり合えるよう努めている		
23		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設病院へ入院されている方は、利用者様と共に散歩時に面会へ行き、他の病院へ入院された方に対しては時間をとり面会へ行き、今までの関係を保つようにしている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・意向に添えるよう一人ひとりと話し合いながら支援している 訴えがない場合は会話の中から聞き出せるよう声かけて把握に努めている	本人が誰に会いたい、何をしたいかなどセンター方式のシートを活用し、日々の会話や寄り添いの中から希望や意向を把握し、ケース記録に記入して情報を共有し、ミーティングで検討している。	
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用し把握する 利用者様・ご家族の方からの話しも聞き利用者様が得意とされる事をケアに活かしている		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄表・受診ノート・ケース記録を中心に心身状態を把握する ミーティングやカンファレンスを活用し、一人ひとりの状況を把握している		
27	(12)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成時、利用者様・ご家族の意向を聞く。また、ミーティング時に全職員との話し合いを行い意見やアイデアを出しながら作成するように努めている	利用者、家族の希望や担当職員の意見等を探り入れ、全職員で話し合い介護計画を作成して、3ヶ月と6ヶ月の見直しをしている。	

グループホーム ぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	見直し前にミーティング時に話し合い検討している また、ケース記録・受薬ノート・カンファレンスノートを活用している		
29		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟なサービスを対応できるように心掛けているが、ご家族の希望はない 今後ニーズがあれば対応していく		
30		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への行事の参加・個別外出・買い物など個別に行っている		
31	(13)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院の協力を得ている 月一回の定期受診、特変があれば臨時受診、訪問看護ステーションの協力も得られている	入居時に利用者、家族に説明し、同意を得て事業所の協力医がかかりつけ医となっており、眼科、皮膚科は家族同行で受診している。受診結果の情報を共有して、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の病院があり、利用者様をよく知る看護職員がいるので、気軽に相談することが出来る、健康管理も十分に出来る 訪問看護との連携もある		
33		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院の入院時には病院関係者との情報交換や相談は密に行え、緊急時もいち早く対応できる 他の病院入院時もサマリにて引継をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医とのインフォームドコンセントを行ったり、利用者様やご家族と十分に話し合い今後方針をカンファレンスやミーティング等で話し合い、変化のあった場合には病院・ご家族にすぐ連絡できるよう準備している。	重度化の指針(ターミナルはしない方針)を作成している。段階的に利用者、家族、医師、職員が話し合い、その都度事業所で対応出来るケアを説明し、方針を共有している。	
35	(15)	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒には注意し、見守り声掛けし気を付けている。誤薬のないように毎回職員同士で確認合っている。離脱される方が入所されたので、危険のないよう、窓があまり開かないようにストッパーを付けて対応している。緊急時のマニュアルがあり勉強をしている	ヒヤリはっと、事故報告書を記録し、検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生対応マニュアルや緊急連絡体制があり、緊急時の対応訓練を年1回実施しているが、全職員の応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでに至っていない。	・応急手当、初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の火災非難訓練を行い、もしもの時は併設病院や施設職員からも手助けを仰げるようにライフラインの確保をしている。法人全体で年2回・独自で2ヶ月～3ヶ月に1回避難訓練を行っている	消防署指導下の避難訓練は法人全体で年2回(夜想定を含む)実施し、事業所独自の訓練は利用者と一緒に2～3ヶ月に1回実施し消火器の使用訓練なども実施している。法人内の災害時連絡協力体制も整っている	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や誇りを傷つけないよう職員一同十分気を付けている。トイレ誘導には側に行きさりげない声かけをしている。特に否定的な声かけや押さえつけるような言葉に注意している。記録類は事務室に保管している	一人ひとりの性格等を把握し、職員同士で言動に注意し合いプライバシーを損ねないように、目立たず、さりげない言葉かけや対応に配慮している。	
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が叶えられるよう家族や日々の関わりの中から情報を得て、自己決定できるよう支援している		
39		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・体操等おおまかな時間は決まっているが、一人ひとりのペースを大切に、一日の過ごし方は自由である。希望に添った支援が出来るよう配慮している		

グループホーム ぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の気に入った洋服が着られるよう入浴時等支援している。化粧のしたい方へは化粧品を一緒に買いに出掛けている。2ヶ月に一回カットをしている。毛染め等も希望がある方は行っている		
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が食事の大切さを十分に認識し三食ともホームで手作りしている 準備・調理・配膳・後片付けなど利用者様と一緒にしている。職員も同じテーブルで同じ食事をしている	三食調理することを大切にし、利用者と一緒に準備、盛り付け、片付けは利用者それぞれの役割が活かされ、笑顔もあり生き生きとした表情が見られる。同じテーブルで会話をしながら、同じ物を食べたり、好みの物や、収穫した野菜を献立に入れたりして食事を楽しむ支援をしている。	
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリーについては老健の管理栄養士に相談しチェックしている 毎日水分・食事量のチェックをし、食事量の少ない利用者様へはご家族に相談し高カロリー飲料等で対応している		
43		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後きちんと口腔ケアをしている。舌苔等にも気を付け、口腔状態の気になる利用者様はすぐに歯科受診できている		
44	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見計らって声かけし、汚染にならないよう配慮・支援している	排泄チェック表を作成し、把握して、習慣やパターンに応じて個別支援に努めている。トイレでの排泄や自立に向かった利用者もいる。	
45		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い水分補給や運動を心掛けている 排便困難時にはオリゴ糖や冷牛乳などで支援している		
46	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一応時間帯や順番は決まっているが、個々の希望に合わせて臨機応変に対応している また、汗をかいたり汚染のある人には随時シャワー浴等の支援をしている	毎日の入浴時間帯は14時から16時30分頃までとなっており、順番を決めて、2人で入浴したりゆったりとした気持ちで入浴が楽しめるよう支援をしている。入浴を嫌がる利用者には声かけなど工夫し、困難な場合はシャワー浴、清拭対応もしている。	



グループホーム ぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や習慣に合わせて対応している また、希望にあわせ昼寝等支援している		
48		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方個人ファイルにあり、全職員が把握できるように記録し、服薬の支援と症状の変化を確認している		
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事のお手伝い・洗濯たたみ・水やり・縫い物等個々の力を出せるように支援している また、散歩・ドライブなどの気分転換を支援している	三度の食事づくりから片付け、縫い物、野菜作り、草取り、洗濯物干しやたたみ、梅ジュースや柏餅作り、貼り絵、生け花、習字、新聞や週刊誌を読む、ぬくもり喫茶や事業所運動会など利用者の力を活かした役割や楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添ってシルバーカーや車椅子などを使い散歩等に出掛けている。また、本人の希望を把握し、ショッピング・カットなど個別外出の支援をしている	お地藏様参り、初詣、四季の花見、家族と一緒にの日帰り旅行、保育園児とのバス旅行、ショッピング、個別の外出などの支援をしている。、毎日の散歩にはシルバーカーや車椅子などを利用して、歩行困難な利用者も出かけるよう支援をしている。	
51		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば同行し売店や自動販売機、ドライブも兼ねて買い物に同行したりなど支援をしている		
52		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば職員がかけて、話してもたらしている。また、手紙や年賀状など職員が手伝いやとりしている		

グループホーム ぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で楽しめるように、玄関前やウッドデッキ(中庭)などに季節に合わせた野菜や花と一緒に植え、収穫している キッチンには皆で作業できるようにオープンキッチンになっている	一直線の廊下の高い窓からは空が見上げられ、食卓や畳の間から共用空間一面のそうガラス越しに山の木々の動きが見られて自然の移りを感じられる。静かで、広々とした共用空間にはコの字型に置かれたソファに座って話したり、穏やかに思い思いの時間を過ごし雑談したりしている。	
54		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前に全員座れるソファや、玄関近くに籐いすを置き、自然とそれぞれに合った居場所ができている		
55	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族・本人と話し合い、これまでの生活で使用していた物を持参してもらい使い慣れた物の中で生活できるよう工夫している	使い慣れたタンス、鏡台、母親の形見の手作り毬や仏壇、人形、週刊誌、テレビ、椅子など思い出のものや使い慣れた物などを活かして居心地よく過ごせる工夫をしている。	
56		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれ、部屋の混乱がないよう各居室前にネームプレートを付けている。又、浴室やトイレも分かりやすくドアに大きな字で表示するなどの工夫をしている		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム ぬくもりの家

作成日: 平成 22年 11月 20日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	応急手当、初期対応の定期的訓練の実施	全職員が応急手当、初期対応が迅速にできるよう身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に1～2回開催される法人全体の研修会に参加した実践を身につける</li> <li>・事業所独自でミーティング時にマニュアルの読み合わせを行う</li> <li>・緊急時の訓練を4ヶ月に1度に行う</li> <li>・その他必要時に訓練を行う</li> </ul>	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。